

令和元年度

学校評価

(自己評価、学校関係者評価)



飯塚市立小中一貫校飯塚鎮西校

(中学部)

自己評価 . . . 1

学校関係者評価 . . . 28

自己評価

(生徒・保護者・教員)

1 学校評価の4つの視点

本校は学校教育目標を「夢や志をもち、やさしく・かしこく・たくましい鎮西児童生徒の育成」とし、このような児童生徒を育てるために、次の4つの視点に基づいた教育活動を実施することとしている。

学力アップ : Communication	コミュニケーション : 伝え合う
意欲をもって学習に取り組み、自分の考えや気持ちを伝え合う児童生徒の育成。	

心力アップ : Collaboration	コラボレーション : 協力して行動する
友達のよさを認め、思いやりをもち、協力して行動する生徒の育成。	

やる気アップ : Change	チェンジ : 自分を高める
地域を愛し、夢や志をもって自分を磨き高めようとする生徒の育成。	

体力・耐力アップ : Challenge	チャレンジ : 挑戦する
自らの健康や体力に関心をもち、心のケアに配慮しながら、目標に向かって最後までやり遂げる生徒の育成。	

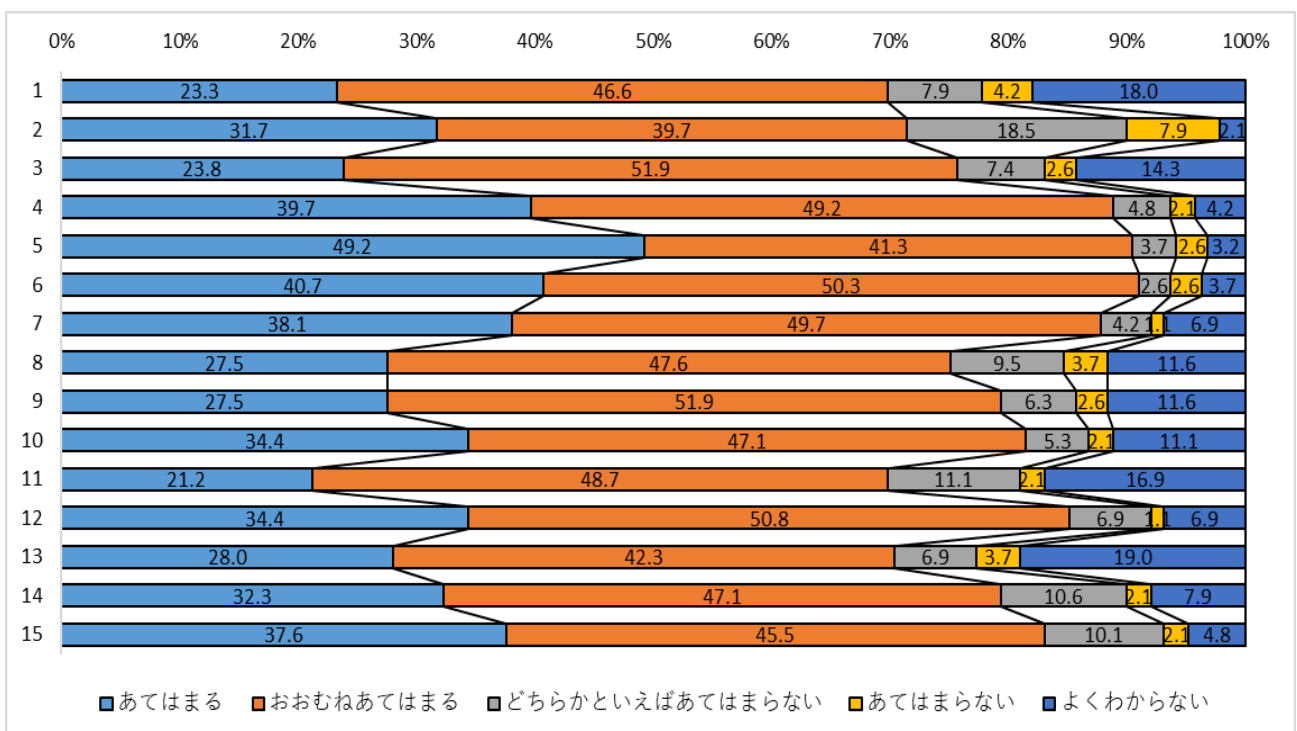
上記、4つの視点に基づいた、本年度の学校の教育活動について、保護者、生徒、教員を対象にアンケートを行い、それらを分析・考察し、次年度に向けた成果と課題をまとめたものを、本年度の「学校評価（自己評価）」として次に提示する。

また、「地域とともにある学校づくり」の視点から、学校から保護者への情報発信・共通理解についてもアンケートを実施し（保護者・教員のみ）、その結果の分析・考察についても併記する。

2 保護者、生徒、教員別の各評価

(1) 保護者評価 (質問項目とグラフ)

	4 C	項目	内容
1	学力 Communication	学力向上	学校は、生徒が理解しやすく、考えを深めることができるような授業を工夫して行っている。
2		家庭学習	お子様は、自主的に家庭学習に取り組むようになってきている。
3	心力 Collaboration	人権尊重	学校は、生徒一人一人が大切にされ、生き生きと学習に取り組むことができる環境づくりに努めている。
4		礼儀	お子様は、家族や友達、地域の方などにあいさつができています。
5		友人関係	お子様は、学校や学級などで、友達と楽しく生活できています。
6		思いやり・助け合い	お子様は、思いやりや助け合いの心をもって、家族や友達に接することができます。
7		遵法精神	学校は、「きまり」や「ルール」を守ることの大切さを伝える指導や取組を行っている。
8	やる気 Change	向上心	学校は、生徒に意欲や向上心を持たせるような学習指導や生活指導を行っている。
9		自主・自律	学校は、生徒が自分の目標を立てて自主的に勉強や運動に励むような指導や取組を行っている。
10		地域連携	学校は、地域や保護者等と連携して、子どもたちの健全育成に努めるような指導や取組を行っている。
11		キャリア教育	学校は、身近な地域や世界、将来の社会を見据えたうえで、自分の進路について考えることができるような指導や取組を行っている。
12	体力・耐力 Challenge	健康・安全	学校は、生徒の健康や安全に配慮した指導や取組、環境づくりを行っている。
13		教育相談	学校は、生徒の相談に適切に応じている。
14	情報発信・ 共通理解	情報発信	学校は、学校の教育方針や学校での学習の様子をわかりやすく保護者に伝えている。
15		共通理解	学校は、各家庭との意思疎通や連携を図るため、各家庭への連絡等を必要に応じてきめ細やかに行うよう努めている。



【「保護者評価」の分析と考察】

保護者評価の中で、最も「あてはまる」「おおむねあてはまる」といった肯定的な回答の数値が高かったのは、「友人関係」、「思いやり・助け合い」で、それぞれ90,5%、91,0%の保護者が肯定的な回答を示している。

また、「礼儀」についても、肯定的な回答は88,9%と高く、保護者の視点からは、本校の生徒は思いやりがあり人間関係も良好、また、あいさつなどについてもしっかりできるようになってきていると捉えられていることがわかる。

逆に肯定的な数値が低いのは、「学力向上」「キャリア教育」についてで、肯定的な評価は69,9%、ついで、「心のケア・教育相談」が70,3%となっている。

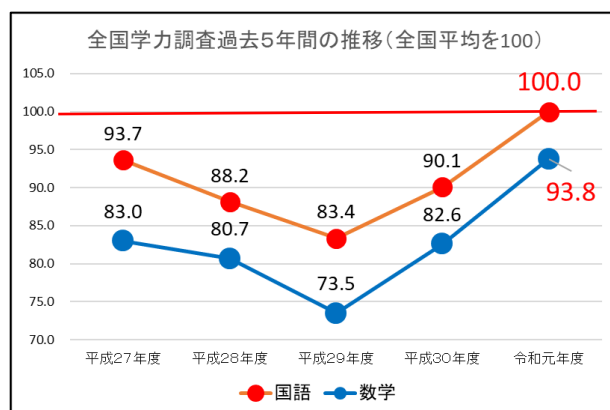
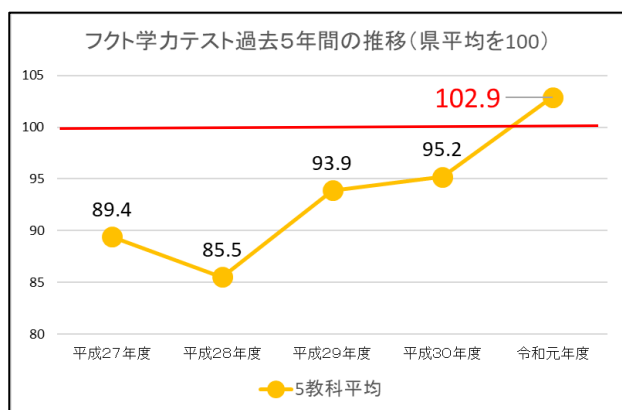
「友人関係」「思いやり・助け合い」「礼儀」等の、「心力 (Collaboration)」に関わる項目に肯定的な回答が多かったのは、小中一貫校となり、生徒たちに先輩として見本とならなければとの意識が高まった影響か、学校生活が全体的に落ち着いてきていることが保護者の目からも見て取れることから、このような結果を導き出していると考えられる。

「学力向上」については、肯定的な回答が全体から比較すると少ないが、実際のここ5年間の学力テスト(「フクト学力テスト(7~9年生対象)」、「全国学力調査(9年生対象)」)の結果を見ると、着実に生徒たちの学力は向上しており、「フクト学力テスト」では本年度は県平均を超え、「全国学力調査」についても、本年度は国語が全国平均に到達している。

【※2項目ごとの成果と課題(1) 学力アップ Communication 参照】

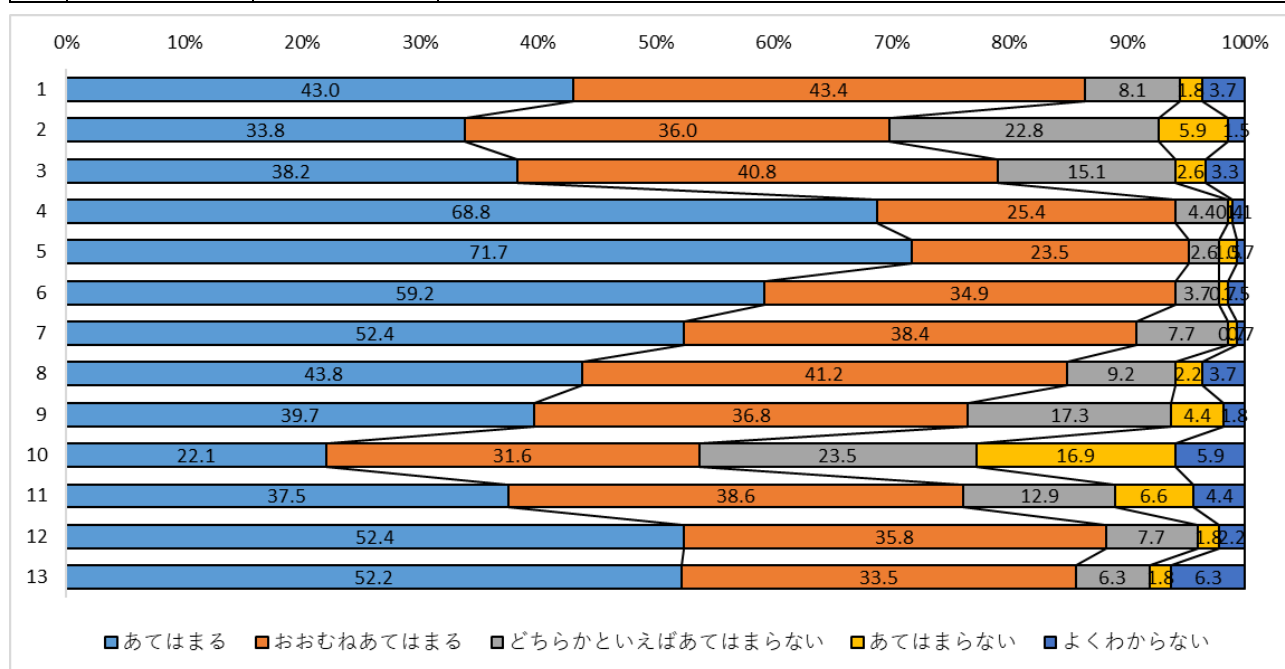
「学力向上」を含め、肯定的な数値が低い「キャリア教育」「教育相談」は、いずれも「わからない」の回答も多く、肯定的な回答が低い項目については、保護者への情報発信を具体的に様々な方法で行うことで解消されていくのではないかと考えられる。

【過去5年間の学力テストの結果】



(2) 生徒評価（質問項目とグラフ）

	4 C	項目	内容
1	学力 Communication	学力向上	先生は、生徒が理解しやすく、考えを深めることができるような授業を工夫して行っている。
2		家庭学習	私は、自主的に家庭学習に取り組んでいる。
3	心力 Collaboration	人権尊重	学校は、生徒一人一人が大切にされ、生き生きと学習に取り組むことができる環境になっている。
4		礼儀	私は、家族や友達、地域の方などにあいさつができています。
5		友人関係	私は、学校や学級などで、友達と楽しく生活できています。
6		思いやり・助け合い	私は、思いやりや助け合いの心をもって、家族や友達に接することができます。
7		遵法精神	私は、「きまり」や「ルール」を守って生活できています。
8	やる気 Change	向上心	私は、意欲や向上心を持って学習に取り組み、学校生活を送っている。
9		自主・自律	私は、自分の目標を立てて自主的に勉強や運動に励んでいる。
10		地域連携	私は、地域や保護者の方と一緒に行う活動に積極的に参加している。
11		キャリア教育	私は、身近な地域や世界、将来の社会を見据えたうえで、自分の進路について考えることができます。
12	体力・耐力 Challenge	健康・安全	先生は、生徒の健康や安全に配慮した指導や取組、環境づくりを行っている。
13		心のケア	先生は、生徒からの相談に適切に応じています。



【「生徒評価」の分析と考察】

生徒評価の中で、最も「あてはまる」「おおむねあてはまる」といった肯定的な回答の数値が高かったのは、保護者評価と同様に、「友人関係」が95,2と最も高く、ついで、「礼儀」、「思いやり・助け合い」の項目の数値が高い。

逆に、肯定的な数値が低かったのは「地域連携」で、肯定的な回答は53,7%にとどまっている。次に肯定的な回答が少ないのは「家庭学習」で、69,8といった数値を示している。

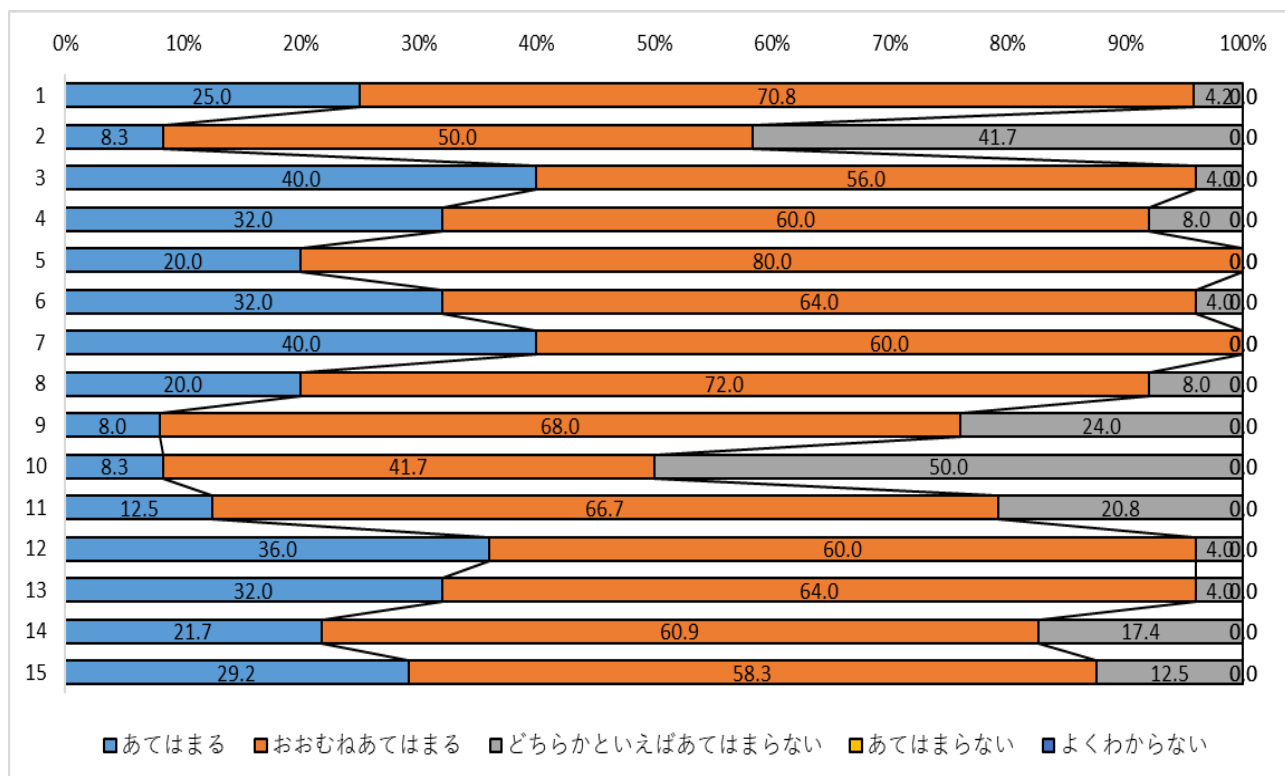
保護者評価と同じく、「友人関係」「思いやり・助け合い」「礼儀」等の「心力(Collaboration)」に関わる項目に肯定的な回答が多かったことから、保護者と同様に、生徒自身も落ち着いた環境で生活できていると実感していることが見て取れる。

また、「地域連携」と「家庭学習」について肯定的な回答が少ないことについては、学校外での活動や過ごし方について、今後、地域や保護者の方々と連携して取組を進めていく必要があることが示されていると考えられる。

また、先述のとおり「友人関係」「思いやり・助け合い」の肯定的な回答の値は高いものの、「人権が尊重される環境づくり」の肯定的な回答の数値は79%と比較すると低く、否定的な回答が17,7%となっている。これについては、仲の良い友達同士ではうまくつきあえているが、学級・学校全体としては皆が共に伸び合える環境になっていないと感じている、または、生徒同士は仲良く付き合っているが、教員の生徒に対する言動に一人一人を大切にしていると感じられない部分がある、といった要因があることが考えられる。「人権が尊重される環境づくり」は学校教育のすべての活動の土台になるものであり、最優先で課題を解消すべく取組を進めていかなければならない。

(3) 教員評価（質問項目とグラフ）

	4 C	項目	内容
1	学力 Communication	学力向上	生徒が理解しやすく、考えを深めることができるような授業を工夫して行っている。
2		家庭学習	生徒が自主的に家庭学習に取り組むよう指導を行っている。
3	心力 Collaboration	人権尊重	生徒一人一人が大切にされ、生き生きと学習に取り組むことができるような環境づくりに努めている。
4		礼儀	生徒が、家族や友達、地域の方などにあいさつができるよう指導を行っている。
5		友人関係	生徒が、学校や学級などで、友達と楽しく生活できるような環境づくりに努めている。
6		思いやり	生徒が、思いやりや助け合いの心をもって、家族や友達に接することができるよう指導を行っている。
7		遵法精神	「きまり」や「ルール」を守ることの大切さを伝える指導を行っている。
8	やる気 Change	向上心	生徒に意欲や向上心を持たせるような学習指導や生活指導を行っている。
9		自主・自律	生徒が、自分の目標を立てて自主的に勉強や運動に励むような指導を行っている。
10		地域連携	地域や保護者と連携して、生徒の健全育成に努めるような指導や取組を行っている。
11		キャリア教育	身近な地域や世界、将来の社会を見据えたうえで、自分の進路について考えることができるような指導を行っている。
12	体力・耐力 Challenge	健康・安全	生徒の健康や安全に配慮した指導や取組、環境づくりを行っている。
13		心のケア	生徒の相談に適切に応じている。
14	情報発信・ 共通理解	情報発信	学校は、学校の教育方針や学校での学習の様子をわかりやすく保護者に伝えている。
15		共通理解	学校は、各家庭との意思疎通や連携を図るため、各家庭への連絡等を必要に応じてきめ細やかに行うよう努めている。



【「教員評価」の分析と考察】

教員評価の中で、最も「あてはまる」の値が高かったのは、「人権が尊重される環境づくり」と「遵法精神」で、ともに「あてはまる」は40%の値を示しており、「どちらかといえばあてはまる」を含めれば96%および100%と、ほとんどの教員がこれらの項目について指導を行えていると感じている。

逆に、肯定的な回答が少なかったのは、「生徒評価」と同じく「家庭学習」と「地域連携」で、それぞれ肯定的な回答は、58,3%および50%にとどまっている。

「人権が尊重される環境づくり」と「遵法精神」の肯定的な値が高いのは、まずは、生徒たちに対してルールを守ることの大切さを指導することで基本的な生活習慣を確立させ、ひいては落ち着いた学習環境づくりを行うことがまず先決であるとの教員の意識が現れていると考えられる。

しかしながら、「人権が尊重される環境づくり」については、教員の肯定的な回答が96%に対して、生徒の肯定的な回答は79%と開きがあり、教員の思いと実際に生徒が感じている実情ではギャップがあることが見て取れる。

「遵法精神」については、生徒・教員共に肯定的な数値が高いことから、全体的な一律した生徒指導はできているものの、個別に配慮した生徒指導については課題があることが要因と考えられるので、今後、職員研修等を行うことで教員の意識や資質・能力を高めていく必要があると考えられる。

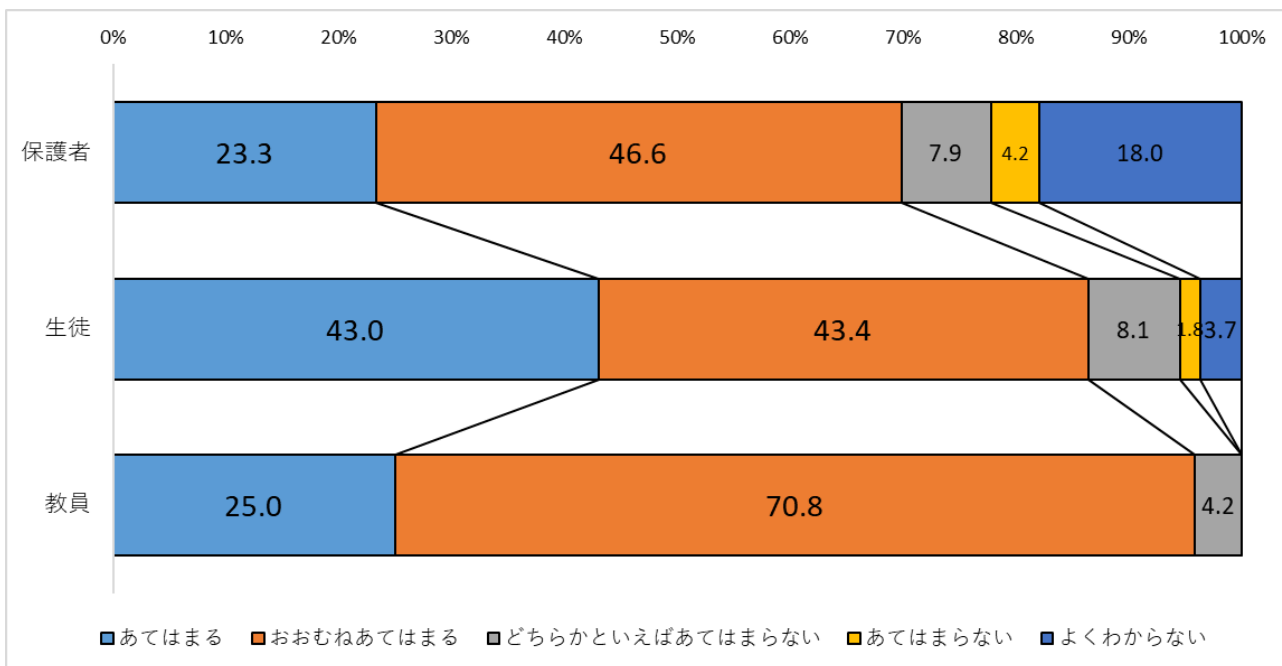
また、否定的な回答で数値が高かったものとして「自主・自律」があり、24%の教員が「どちらかといえばあてはまらない」と回答しており、十分な指導に至っていないとの実感をもっている。これまで学校では生徒会活動を中心に様々な取組を行っているが、まだまだ教師主導型の取組となっている部分があり、今後、これからの生徒に求められている、「主体的に課題を解決していこうとする力」を育むために、様々な教育活動の中で生徒が課題を見つけ、討議することで課題の解決を図っていくような場面をより多く設定していく必要がある。

3 項目別の評価

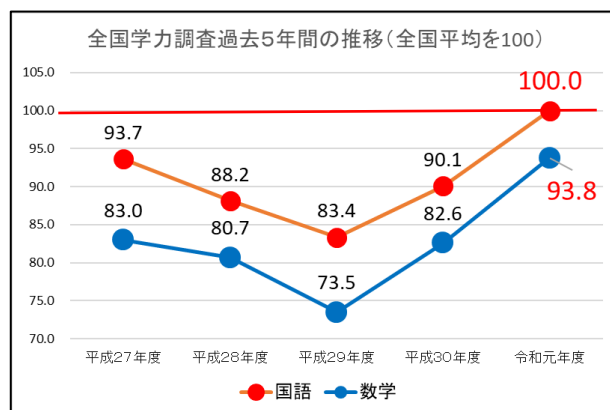
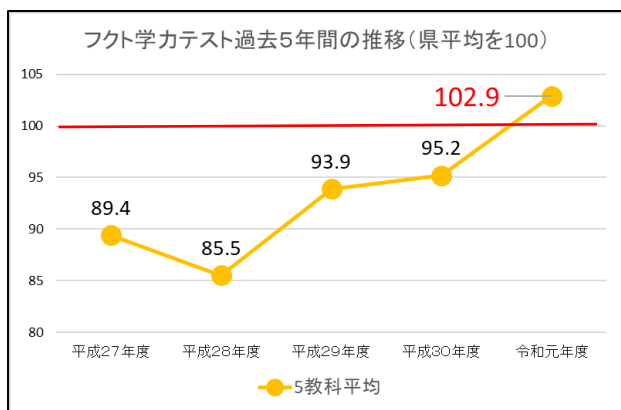
(1) 学力アップ Communication

① 学力向上

※ 生徒が理解しやすく、考えを深めることができるような授業が工夫して行われている。(行っている)



【過去5年間の学力テストの結果】(再掲)



「学力向上」に関しては、どの学年も着実に成績は伸びており、本年度のフクト学力テストでは、全学年県平均を超え、ここ5年間では最高の結果を残している。

しかしながら、基礎・基本の知識・技能の力を問うフクト学力テストに対して、主に知識の活用力を問う「全国学力調査」の結果は、伸びてはいるものの比較をすると低い数値を示しているため、今後、飯塚市が取り組んでいる知識の活用力を育成する授業の形態である、知識構成型ジグソー法による「協調学習」(※注)の取組を継続して進めていく必要がある。

また、生徒評価の中で1割近くの生徒が否定的な回答を示しており、全体的な学習指導に併せて、個々の実態に応じた補充的な学習を進めていく必要がある。令和3年度から新学習指導要領が実施され授業時数も増加することから、なかなか授業時間外で補充学習の時間を設けることができない実情があるので、個々の生徒に対応するために、TT授業（複数の教員がクラスに入る形態の授業）やクラスを複数に分けての少人数編成による分割授業、および、一斉型の授業ではなく一人一人が主体的に授業に参加できる授業形態の工夫（協調学習）の推進をより一層進めていく必要がある。

さらに、次項で述べる「家庭学習」についても個々の実態に応じた学習の一環として効果的なものになるよう取組を進めていかなければならない。

併せて、保護者の回答で「よくわからない」が2割近くを示しているので、学校通信、学年通信、学校ホームページ、授業参観等を有効に活用して、学校の学習活動の取組を保護者の方々にも具体的に伝わるように、より一層の情報発信をしていく必要がある。

※注「知識構成型ジグソー法による協調学習」とは

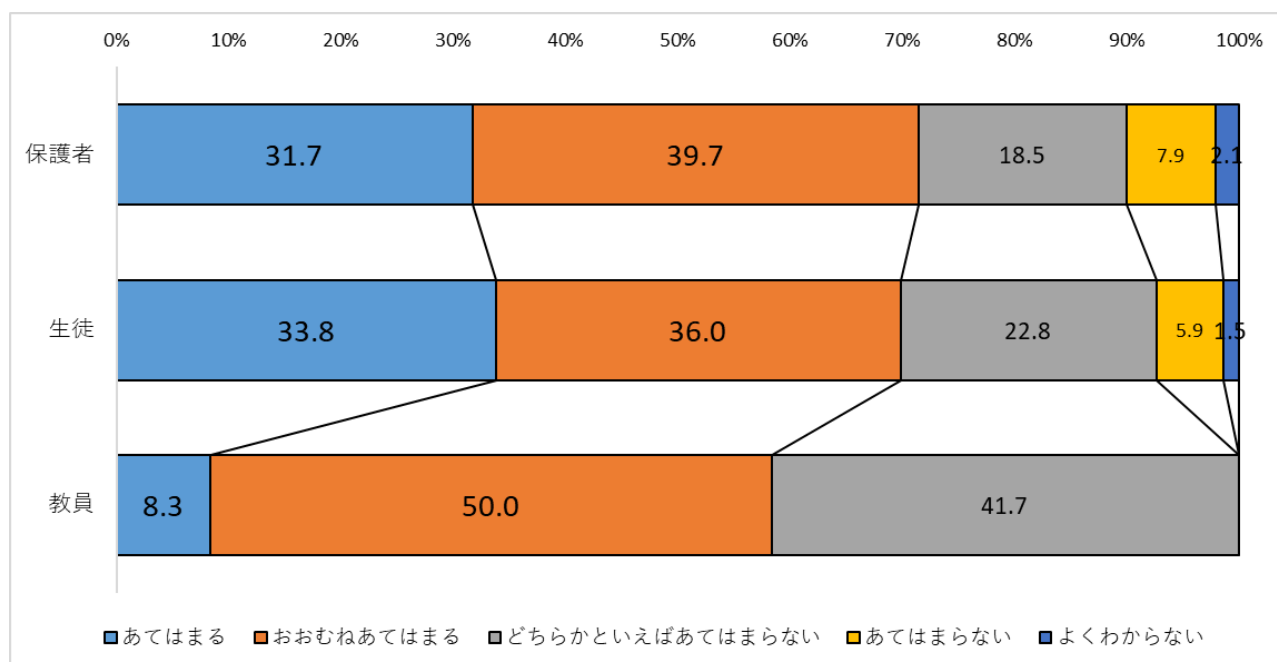
生徒一人一人に、「主体的・対話的で深い学び」を引き起こすために、東京大学 CoREF が提案している「3つの異なる考えを組み合わせる課題に答えを出す」学習法。下記に示す一連の学習の流れを通じて、課題についてのいろいろな考えを比較・吟味することで、一人一人が今日の授業のテーマについての自分なりの納得を形成することをねらいにしている。



【「知識構成型ジグソー法による協調学習」の基本的な流れ】※埼玉県HPより

② 家庭学習

※ 生徒が自主的に家庭学習に取り組んでいる。(指導を行っている)



「家庭学習」に関しては、保護者、生徒、教員とも肯定的な数値が他の項目に比べ低い。

本校では、家庭学習として「自学ノート」の取組を行っている。生徒が主体的に家庭学習を行うように促すため、生徒自身がその日の学習のテーマを決めて学習し、ノートを提出するようになっている。

しかしながら、家庭で学習しておらず、結局は学校で自学ノートを書かせている生徒も多く、家庭学習が定着しているとは言い難い。

家庭学習を定着させるためには保護者の協力を得ることが必要であるが、学校としても生徒が主体的・意欲的に家庭学習に取り組む手立てを考える必要がある。教員のアンケート結果で、否定的な回答が41.7%と高いのは、効果的な手立てが行われていないことの自覚の現れが見て取れる。

家庭学習を主体的なものとし、さらに授業の内容につながるようなものにする手法として、「反転学習（反転授業）」※注等があるが、これらの生徒が主体的に学習に取り組むための手法について教員も研修を積み、家庭学習と授業が一体となったシステムを構築していく必要がある。

※注「反転学習(反転授業)」とは

通常の学校教育は、授業で先生が講義形式で知識伝達を行い、放課後に自宅で先生から課された宿題をすることで、知識の定着を図るとというのがこれまでの一般的な教育方法であった。

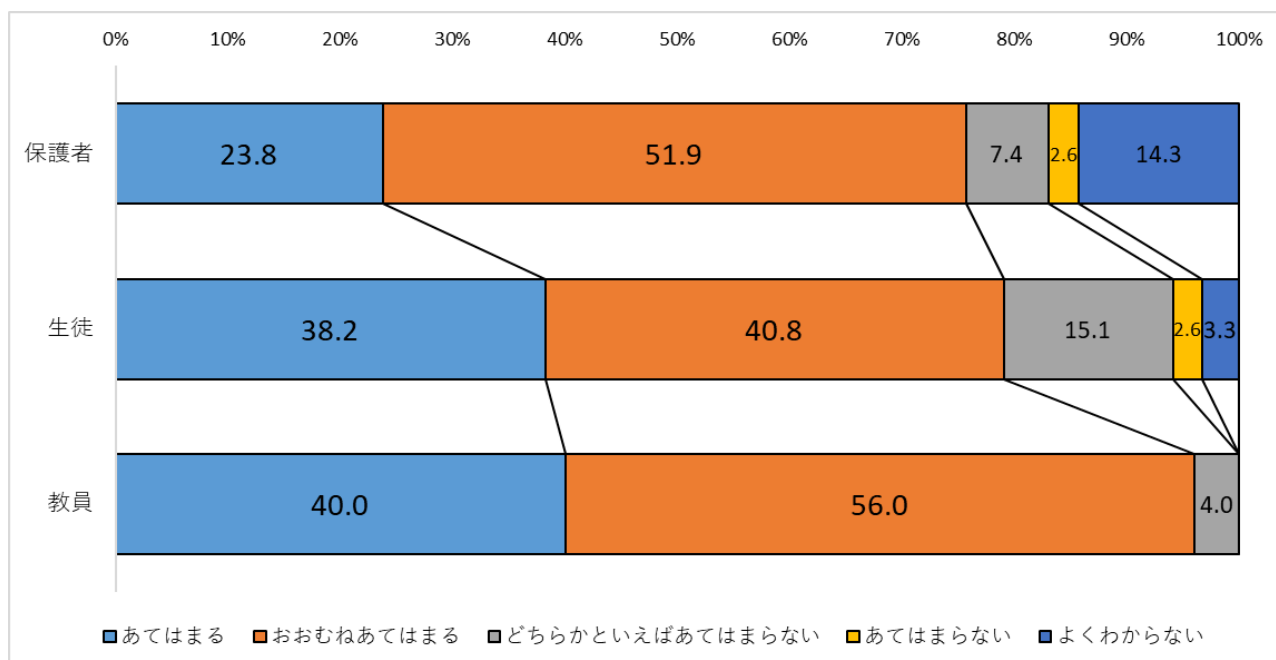
反転学習は、一般的な教育方法を反転させたもので、まず、基礎的知識を習得するための自宅学習用教材を生徒に配布します。生徒は与えられた教材を使って予習を行い、学校で学習内容に関する演習や質問・意見交換などを行うという教育方法です。

ただし、家庭で基礎的知識を習得する際の教材は、一人でも理解しやすいビデオ教材が有効であるとされており、効果的な学習を進めるための環境づくりも今後必要となってくる。

(2) 心力アップ Collaboration

③ 人権が尊重される環境

※ 学校は、生徒一人一人が大切にされ、生き生きと学習に取り組める環境になっている。(環境づくりに努めている)



「人権が尊重される環境づくり」については、教員の肯定的な回答が96%に対して、保護者、生徒の肯定的な回答は、それぞれ、75.7%、79%と比較すると低い数値を示している。特に、生徒については、17.7%の否定的な回答がなされている。

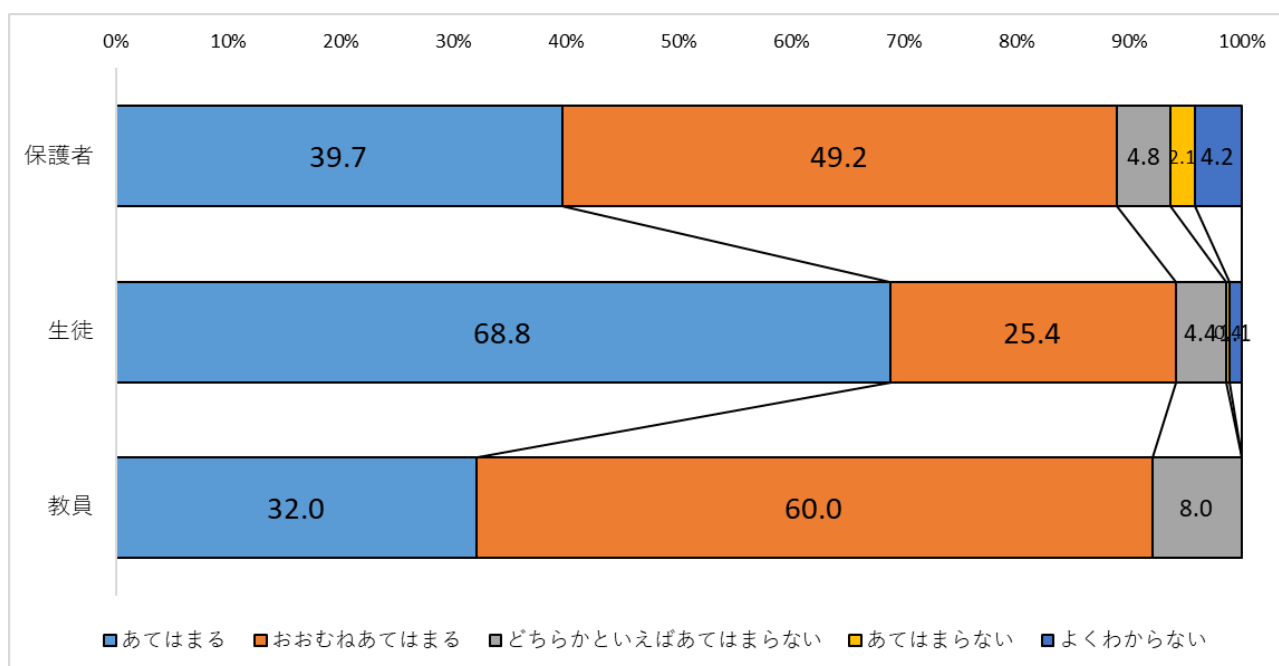
後述する、「友人関係」の生徒の肯定的な回答の値は95.2と高い数値を示しているにもかかわらず、「人権が尊重される環境づくり」の肯定的な回答の数値が16.2%も低いことの要因は、仲の良い友達同士ではうまくつきあえているが、学級・学校全体としては皆が共に伸び合える環境になっていないと感じている、または、教員からの生徒一人一人に対する個別の配慮に物足りなさを感じている、といったことが考えられる。「人権が尊重される環境づくり」は学校教育のすべての活動の土台になるものであり、最優先で課題を解消すべく取組を進めていかなければならない。

そのための手立てとしては、まず日常の授業においては、発達障がい等を含めた配慮が必要な生徒についても適切に授業に参加できる「ユニバーサルデザイン」の授業をさらに推進したり、個別の相談にのる教育相談を充実させたりすることが考えられる。および、共に伸び合える学級集団作りを進めるために、「ライオンズ・クエスト」のようなソーシャルスキル・トレーニング※注を学級活動の時間を活用し効果的に行っていく必要がある。

※注「ソーシャルスキル」とは 対人関係や集団行動を上手に営んでいくための技能（スキル）のこと。対人場面において、相手に適切に反応するために用いられる言語的・非言語的な対人行動のことで、その対人行動を習得する練習のことを「ソーシャルスキル・トレーニング」と言う。

④ 礼儀

※ 家族や友達、地域の方などにあいさつができる。(指導を行っている)



「礼儀」については、保護者、生徒、教員ともに肯定的な回答の数値が90%前後と高い数値を示している。

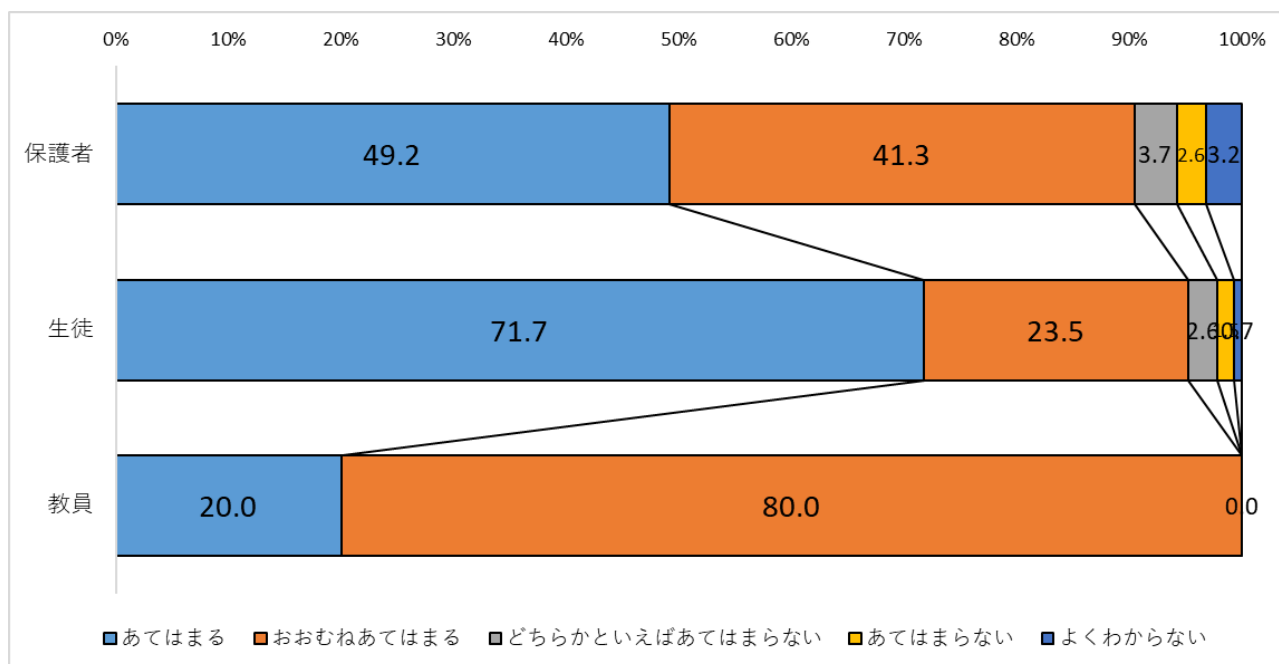
これは、昨年度も行ってきた小中合同でのあいさつ運動に加え、中学校では生徒会を中心に、「知っている人たちだけではなく、知らない方々にも積極的にあいさつをしよう」のスローガンのもと呼びかけを行ったことで少しずつ様々な方々にあいさつをする生徒が増えてきたことが要因と考えられる。

小中一貫校となり、外部からの学校施設等の見学者も増えてきており、誰にでも分け隔てなくあいさつができる学校であることは、生徒たちの健全育成が順調に行われていることを地域の方々や地域外の方々に知っていただくうえでも重要であると考えます。

今後は、「鎮西地区まちづくり協議会」が掲げる鎮西っ子のスローガン、「めざそう あいさつ ナンバーワン」のより一層の充実を目指して、地域の方々と協力した取組を進めていきたい。

⑤ 友人関係

※ 生徒は、学校や学級などで、友達と楽しく生活できている。(環境づくりに努めている)



「友人関係」についても、「礼儀」と同様に、保護者、生徒、教員ともに肯定的な回答の数値が90%以上と高い数値を示している。特に、保護者・教員の回答に比べ、「あてはまる」と回答した生徒が71.7%と多く、周囲の大人たちが見ている印象よりも、子どもたちは良好な人間関係を築いていることがわかる。

この要因としては、学校での生徒指導事案が減少してきたことにより生徒たちの心情が落ち着いたものになってきていること、また、小学生とともに生活することで、友人関係においても手本となるような行動をとらなければならないとの意識が芽生えてきていることが考えられる。

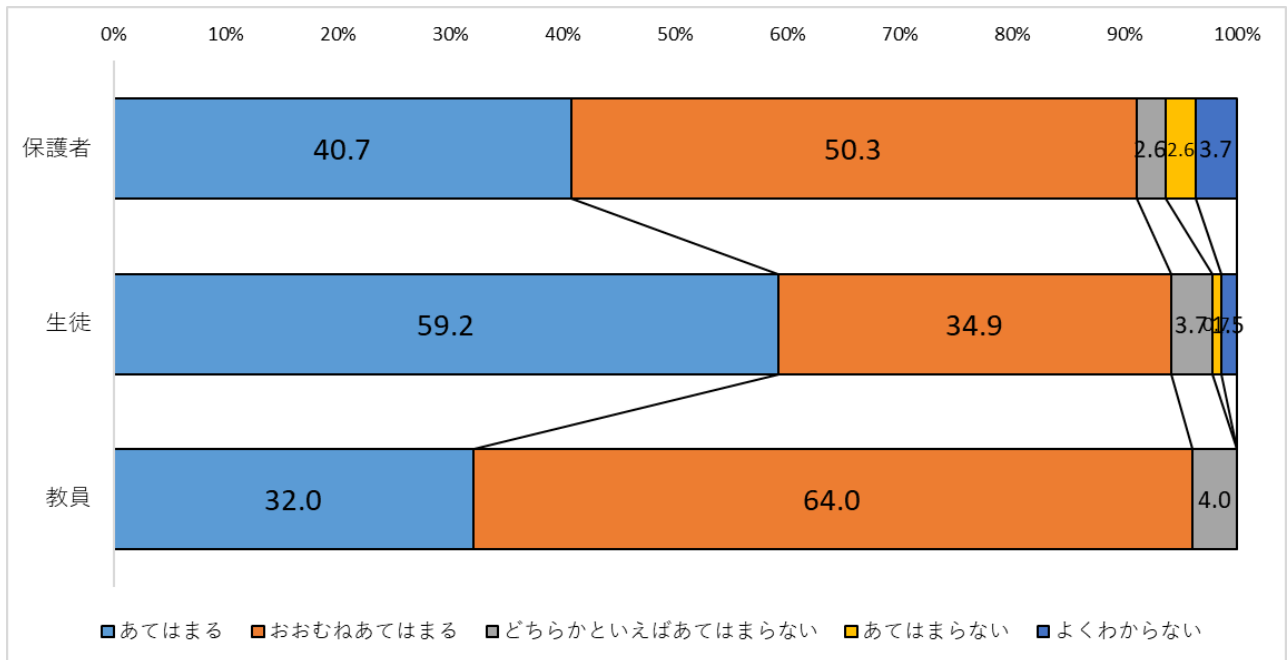
今後の課題としては、「友人関係」に否定的な回答を示している生徒が3.3%おり、心に不安を抱えて登校している生徒たちが存在しているので、教員はこれまで以上にアンテナを高くして生徒を見守るとともに、定期的な生活アンケートの実施、および、効果的な教育相談の手法について研修を積み、特に、「いじめ」の早期発見、早期解消に努めていかなければならない。

※ 本年度の学校が認知した「いじめ」は6件。主ないじめの実態は、「冷やかし、からかい」が4件、「仲間外れ、無視」が1件、「物を壊される」が1件、「いやなこと・恥ずかしいことをされる」が1件（重複あり）となっている。これらはすべて、生徒、保護者ともに対話を重ねることで解消へと向かっている。

しかしながら、教員が気づいていない「いじめ」も数多く存在するとの認識のもと、「いじめ」の認知度を高めていかなければならない。

⑥ 思いやり・助け合い

※ 生徒は、思いやりや助け合いの心をもって、家族や友達に接することができる。（指導を行っている）

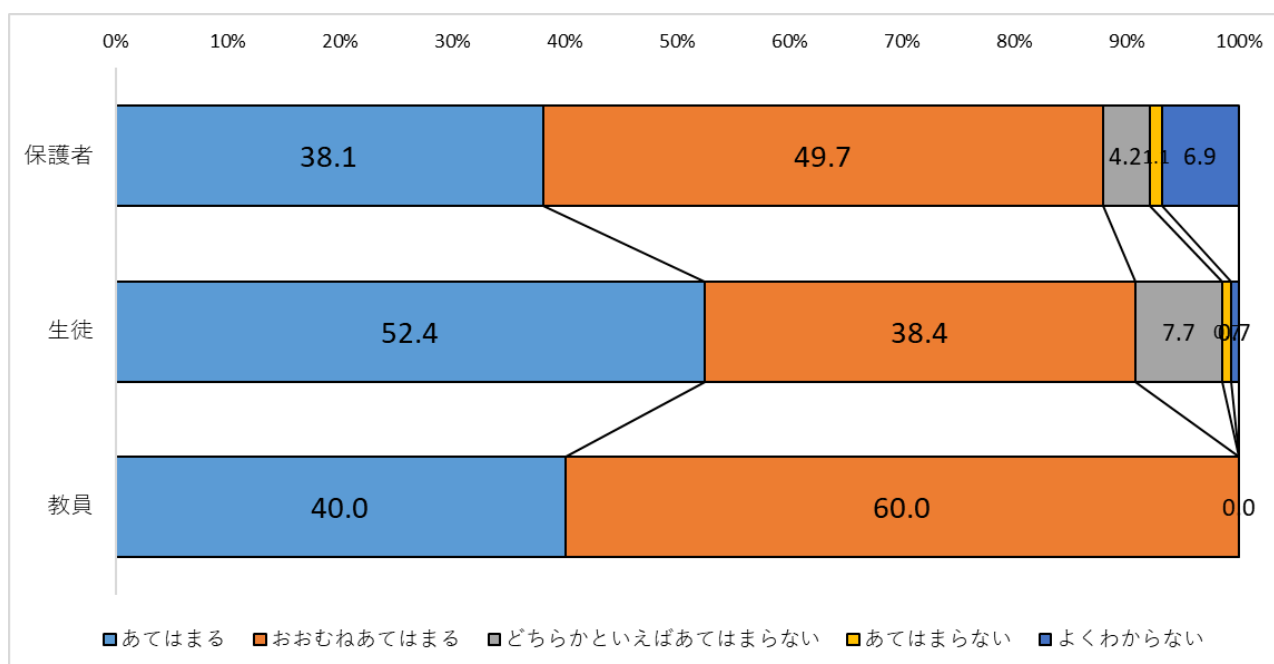


「思いやり・助け合い」についても、「友人関係」と同様に、保護者、生徒、教員ともに肯定的な回答の数値が90%以上と高い数値を示している。

「友人関係」だけではなく「思いやり・助け合い」の肯定的な数値が高いということは、仲の良い友達だけではなく、分け隔てなく周囲の人たちに思いやりをもって接することができるということを示している。特に、友達だけではなく「家族」にも思いやりをもって接しているという回答が保護者、生徒ともに多いのは、生活の基盤としての家庭環境が整ってきていることが示されていると考えられる。

⑦ 遵法精神

※ 生徒は、「きまり」や「ルール」を守って生活できている。(指導を行っている)



「遵法精神」についても、保護者、生徒、教員ともに肯定的な回答の数値が90%以上と高い数値を示している。

学校・社会においては、ルールやきまりが守られていない集団では、まず弱い立場の者からつらい目に遭遇していくため、落ち着いて生活できる環境についても脅かされていくこととなる。

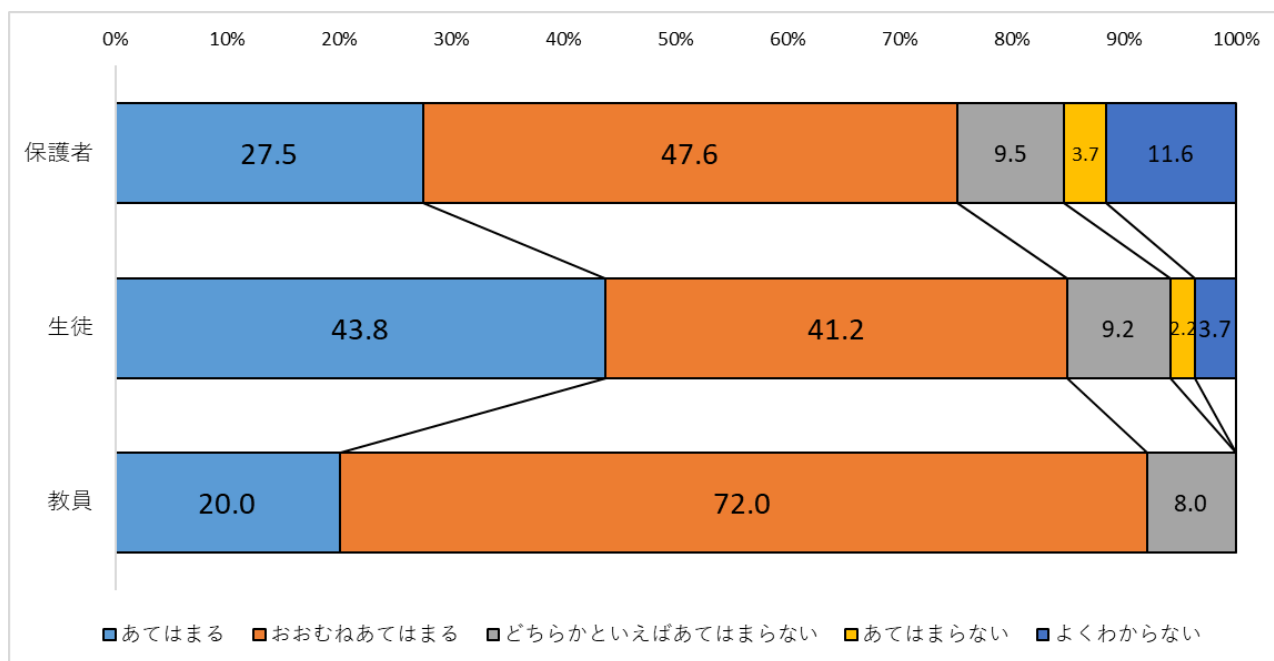
本校においては、以前、この「ルールやきまり」について守られていない状況があり、教員もこれまではこの分野にかなりの労力を費やす必要があったが、各家庭や地域の方々の協力もあり、「ルールやきまり」が守られる環境づくりができていることで、先述した通り、落ち着いて学習できる環境づくりが整ってきているということが言える。

「人権尊重」「礼儀」「友人関係」「思いやり・助け合い」「遵法精神」といった「心力アップ Collaboration」にあたる項目は押しなべて肯定的な回答が多く、共に伸びていける学校環境の土台が整ってきていると考えられる。

(3) やる気アップ Change

⑧ 向上心

※ 生徒は、意欲や向上心を持って学習に取り組み、学校生活を送っている。(指導を行っている)



「向上心」については、教員の肯定的な回答が92%であるのに対し、保護者・生徒の回答はそれを下回る結果となっている。

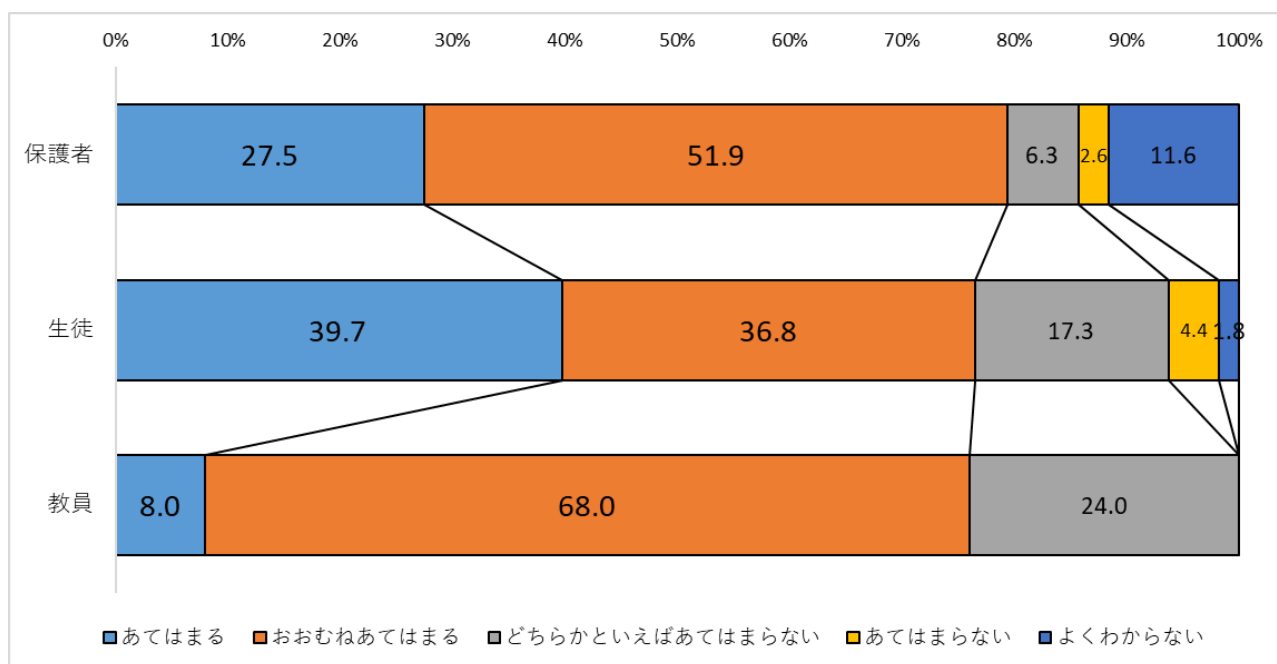
生徒の「向上心」を高めるためには、生徒に具体的な将来の目標をもたせることと、今学習していることが、その目標に対してどのようにつながっているかを生徒に提示していく必要がある。保護者・生徒の肯定的な回答が教員の回答を下回っているのは、その部分が不十分な面があることが考えられる。

そのためには、後述の「キャリア教育」等を通して、生徒一人一人に自己の生き方について考えさせる場を数多く設定するとともに、日常の授業においても、高校入試をゴールとしない、生徒の将来の生き方に各授業科目や単元がどのようにつながっていくのかを教員と生徒とで共有しながら、対話を通して考えを深めていく授業づくりを行っていかなければならない。

このような授業づくりは、令和3年度から実施の新学習指導要領で、これからの授業の在り方として示されている、「主体的・対話的で深い学び」に基づくものであり、学校および各教員も、そのような授業づくりに必要な研修を行っている。

⑨ 自主・自律

※ 生徒は、自分の目標を立てて自主的に勉強や運動に励んでいる。(指導を行っている)



「自主・自律」については、否定的な回答が生徒で21.7%、教員で24%と高い数値を示している。

これは、日常的な授業や学校行事等が教員主導で進められるものも多く、生徒も教員も生徒の自主・自律の精神が高まっていると実感できていないことが要因と考えられる。

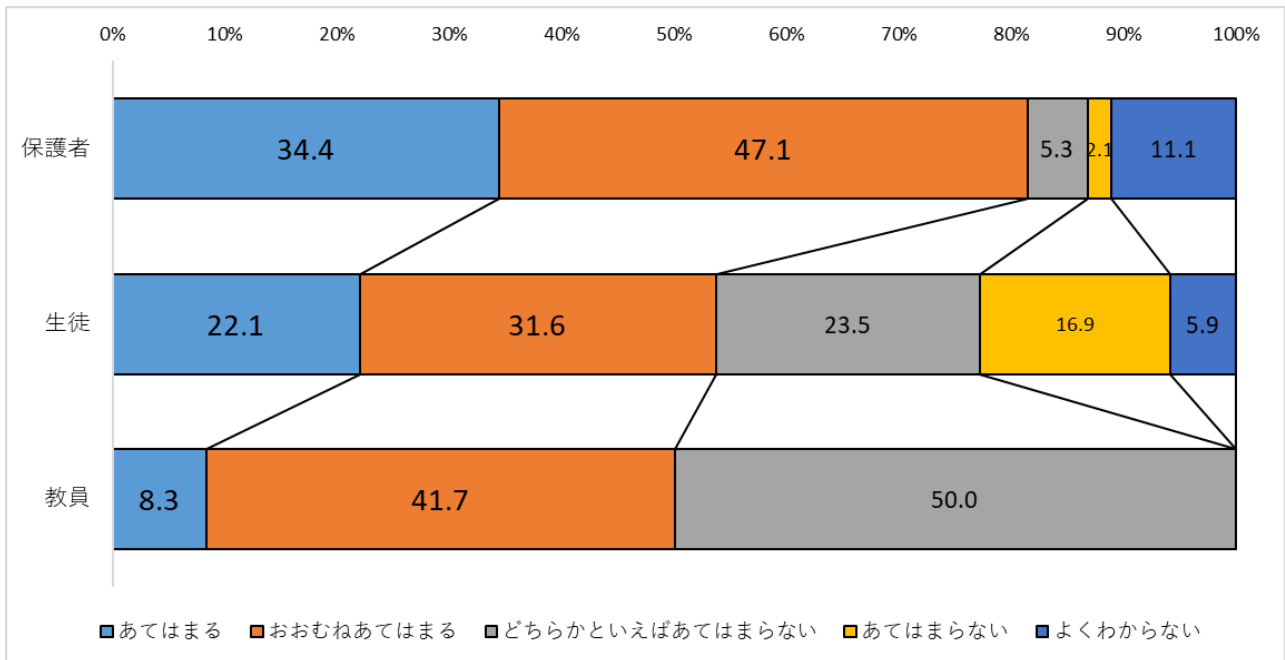
現在と比べ、数年前は生徒指導事案が多く、まずは大人の力で学校を落ち着かせていかなければならない状況もあったため、どうしても教員主導で物事を進めていかなければならない実態があった。しかしながら、現在は「心力アップ」の項目でも見られるように学校環境も落ち着いてきているので、生徒会を中心に生徒主体の活動の場面を多く設定していく必要がある。

また、個々の生徒の進路についても、総合的な学習の時間等を活用してキャリア教育を系統的に実施していくことで、将来の自己の目標を明確にさせ、日常の学習や学校生活が個々の「自主・自律」の精神に基づくものとなるように取組を進めていかなければならない。

そのために、すべての子どもたちに将来必要とされる資質・能力である国際的な感覚、情報技術力について社会の実態や予想される未来の様態に基づいてその必要性を実感できる場を設定し、生徒がこれまで以上に広い視野から自己の進路を見つめることができる環境づくりを行うなどの手立てをうっていかなければならない。

⑩ 地域連携

※ 生徒は、地域や保護者の方と一しょに行う活動に積極的に参加している。(指導や取組を行っている)



「地域連携」については、保護者と生徒で大きく肯定的な回答の値が異なっており、保護者の肯定的な回答が81.5%を示しているのに対し、生徒の肯定的な回答は53.7%にとどまっている。

この結果については、保護者の視点から見ると、学校行としての親子ふれあい活動がどの学年でも行われており、また、地域で行われている行事にも多くの生徒が参加している姿が見られるため、肯定的な回答が8割を超えていると考えられる。

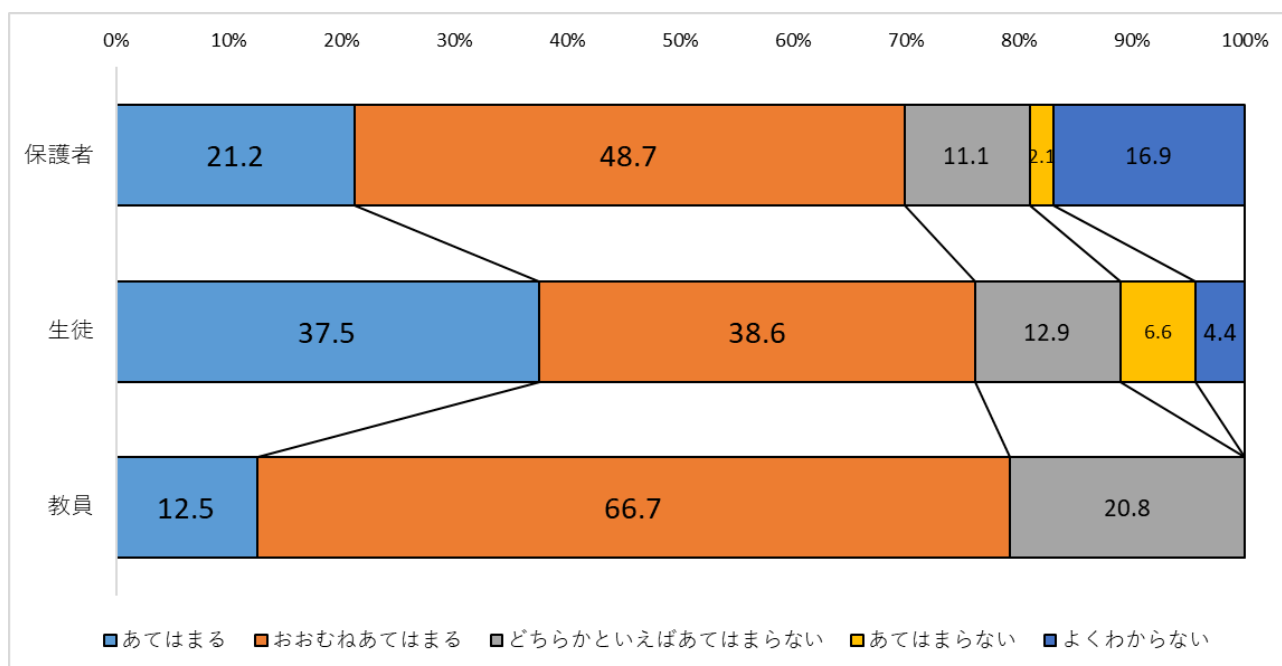
しかしながら、生徒の立場から見ると、学校での親子ふれあい活動は保護者や教員がお膳立てしたものをやっているだけで、その準備等の段階から積極的に関わってきたものではないとの意識があるのではないかと考えられる。

地域の行事についても、一部の生徒についてはその運営の段階からお手伝い等がかかわっている生徒もいるが、他の生徒については行事に足を運んでいるが積極的に関わっているとは言えないと感じているのかもしれない。

「地域連携」は「地域とともにある学校づくり」の観点から重要なものであり改善が必要なものであるが、今後は、地域の行事を学校行事の一部に位置付けるなどして、行事の運営に関わる部分にも多くの生徒が携わることができるような場を学校の教育課程の一つとして位置付けていけば、生徒全員が目的意識をもって地域の活動に参加できる環境ができる。また、生徒自身が企画した地域と一体になった活動を総合的な学習の時間を通して実施していけば、さらに意識は高まるものと考えられる。

⑪ キャリア教育

※ 生徒は、身近な地域、世界、将来の社会を見据えたうえで、自分の進路について考えることができている。(指導を行っている)



「キャリア教育」は、先述の「向上心」「自主・自律」「地域連携」のすべての土台となるものである。従来、高校進学のみをゴールとした進路指導ではなく、身近な社会や未来の世界の状況などに向かい合い、その中で自分に何ができるか、周囲の人たちと協力して何ができるのかについて考えていくことが「キャリア教育」であり、ここで未来の自分像を個々の生徒がもつことにより、中学校での学習や活動が目的意識をもった主体的なものになっていく。

本年度は、従来行われてきた「職場体験活動」等に加え、将来子どもたちがどのような職業に就こうとも必要とされる「プログラミング」に係る力や、グローバル化社会に対応できる国際感覚を養うための取組を新たに行ってきた。

しかしながら、「キャリア教育」については教員も手探りでやっている感が強く、5分の1の教員が、その指導について否定的な回答を示している。また、保護者についても否定的な回答が13.4%、生徒についても19.5%が否定的な回答を示している。

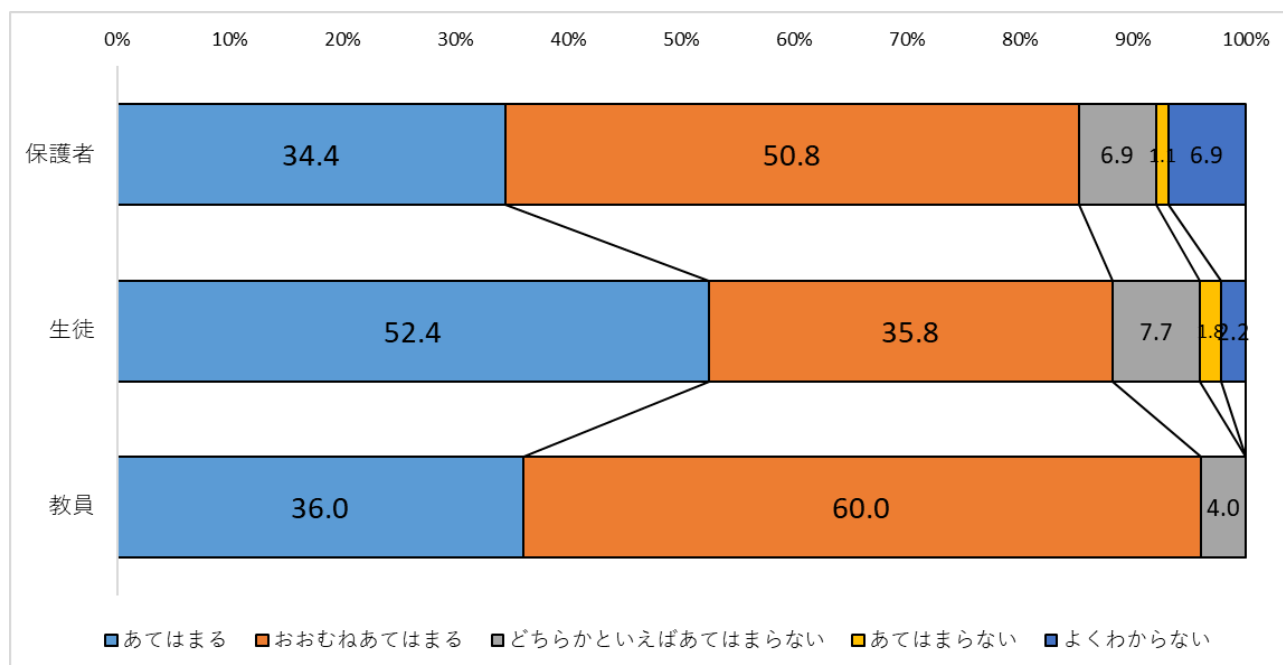
「キャリア教育」については、小中9年間を通して系統的に進めていく必要があり、小学校と連携してどのように子どもたちに適切なキャリア形成を行える場を設定していくかが今後の取組の鍵となると言える。

また、保護者の回答で16.9%の方が「わからない」と回答しており、子どもたちの将来を見据えた「キャリア教育」については家庭での保護者との対話も必要となってくるため、学校で今どのような取組をしているかを通信やホームページを用いて保護者に広報していく必要がある。

(4) 体力・耐力アップ Challenge

⑫ 健康・安全

※ 生徒の健康や安全に配慮した指導や取組、環境づくりが行われている。



「健康・安全」は、「体力・耐力アップ」の「体力」に関わる項目で、「自らの健康や体力に関心をもち、目標に向かって最後までやり遂げる生徒の育成」を目指している。アンケートでは、保護者、生徒、教員共に肯定的な回答が90%前後の高い数値を示している。

本年度行われた新体力テストの結果を見ると、48項目（8種目×3学年×男女）のうち、全国平均の数値を超えているものは25項目（下表で黄色で示した部分）と半数を超えており、本校の生徒の体力は全国水準以上であることが見て取れる。

しかしながら、競技別では全学年において全国平均に届いているものが少ない種目もあり（「上体起こし」「20Mシャトルラン」「50M走」「ハンドボール投げ」等）、主に走力や上半身を使った球技に課題があることがわかる。保健体育科の授業と家庭で個人的に行えるトレーニングを中心に、基礎的な体力を身につけるための指導と取組が必要である。

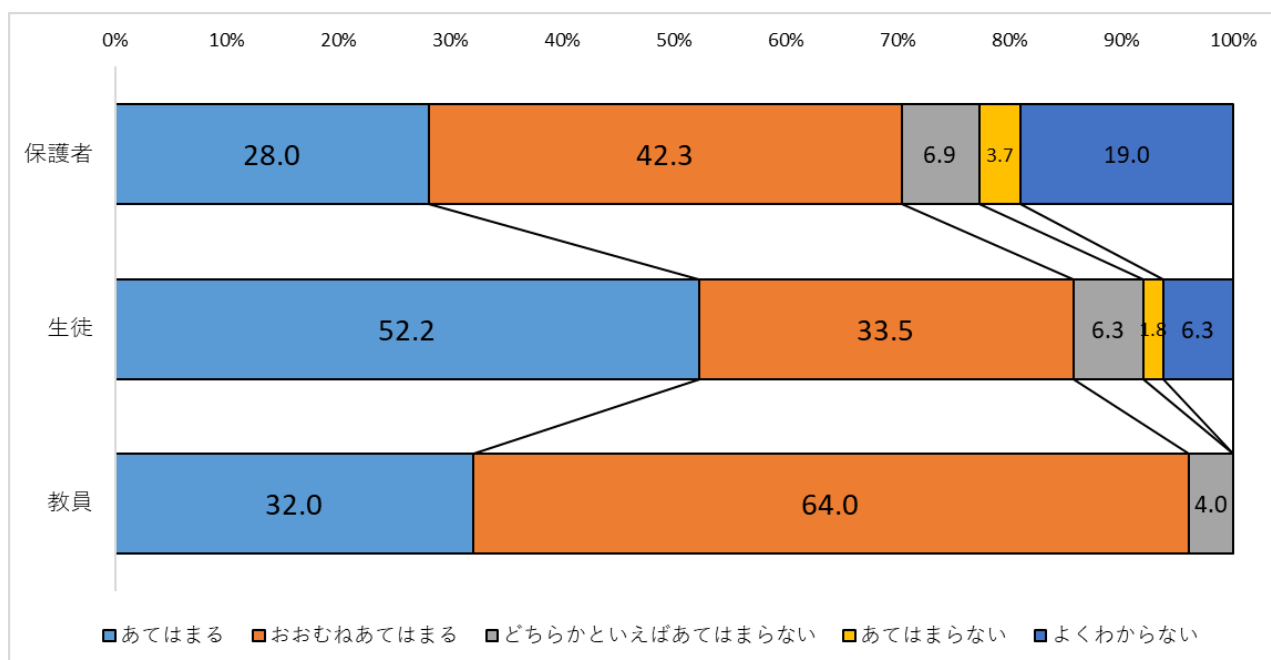
併せて、健康な体を育成するために必要な安全面については、熱中症や光化学スモッグ等に対する学校としてのケアや自分自身を守るための知識や心構えを生徒一人一人にもたせる指導もより一層日常的に行っていかなければならない。特に、新型コロナウイルスの事案からもうかがえるとおり、日頃の手洗いや換気等の必要性についても改めて生徒に指導していく必要がある。

【本年度の新体力テストの結果】

			握力(kg)		上体起こし(回)		長座体前屈(cm)		反復横とび(点)		20mシャトルラン(回)		50m走(秒)		たち幅跳び(cm)		中ハンドボール投げ(m)	
			学年平均	全国平均	学年平均	全国平均	学年平均	全国平均	学年平均	全国平均	学年平均	全国平均	学年平均	全国平均	学年平均	全国平均	学年平均	全国平均
男子	中学校	中1	25.6	23.9	25.9	24.6	45.8	40.0	53.1	50.3	76.4	73.2	8.1	8.4	198.3	182.8	18.6	18.4
		中2	30.1	30.4	28.1	28.3	44.7	45.3	52.0	54.2	94.2	90.4	7.9	7.8	207.1	203.6	22.1	21.4
		中3	35.3	34.8	28.1	30.4	50.9	47.9	56.0	56.9	94.0	96.8	7.5	7.4	222.9	215.6	24.1	24.3
女子	中学校	中1	23.0	21.9	23.8	21.3	50.1	44.1	49.1	46.8	52.8	54.1	8.7	8.9	180.5	168.3	11.9	12.1
		中2	25.8	24.3	24.0	24.4	46.9	47.4	45.8	48.7	58.4	64.5	8.7	8.6	174.7	176.5	13.2	13.9
		中3	26.0	25.7	23.9	25.2	51.4	48.7	49.8	49.5	62.1	62.7	8.8	8.5	179.6	177.1	14.4	14.7

⑬ 心のケア・教育相談

※ 学校は、生徒の相談に適切に応じている。



「心のケア・教育相談」は、「体力・耐力アップ」の「耐力」に関わる項目で、「様々な課題の解決のために粘り強く取り組める耐力を維持させるために、生徒の心のケアに留意し、心身の健康を保つ」ことを目指している。

アンケートを見ると、教員の肯定的な回答が96%と高い数値を示しているのに対し、保護者・生徒は、教員と比較すると肯定的な回答は下回る結果となっている。

学校では定期的に生徒一人一人に対し教育相談や生活アンケートを行い、生徒の心の状況を把握するための取組を行っているが、本心をそのまま書き込んだり、話したりできない生徒の存在も視野に入れ、日常的な場面で生徒の微妙な変化を見取り、教員同士でその内容について共有できるような感性を高めることに留意することと、そのために必要な教員の研修も行っていかなければならない。

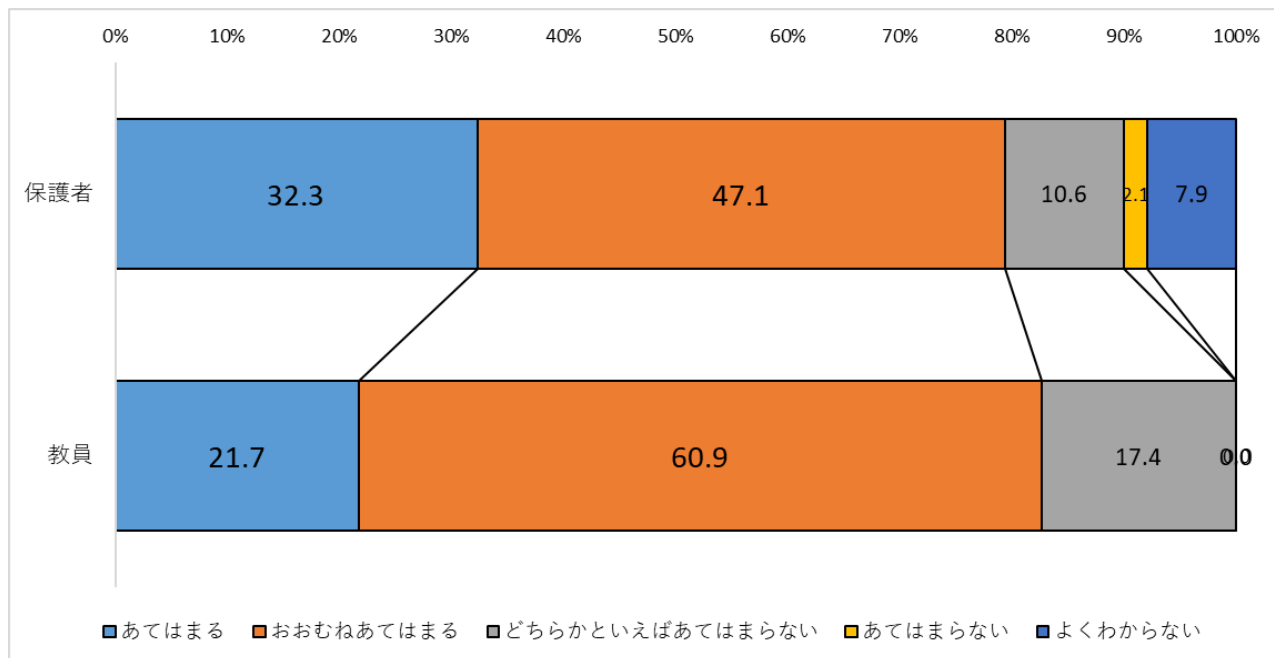
さらに、生徒自身が自ら心のケアができるよう、ストレスマネジメントの学習を教科や学活等で横断的に行うことも重要である。

また、保護者の回答には20%近く「わからない」と答えているものがあり、学校全体として生徒たちの心のケアのためにどのような取組を行っているか等について保護者に向けた情報提供も行っていく必要がある。

(5) 保護者への情報発信・共通理解

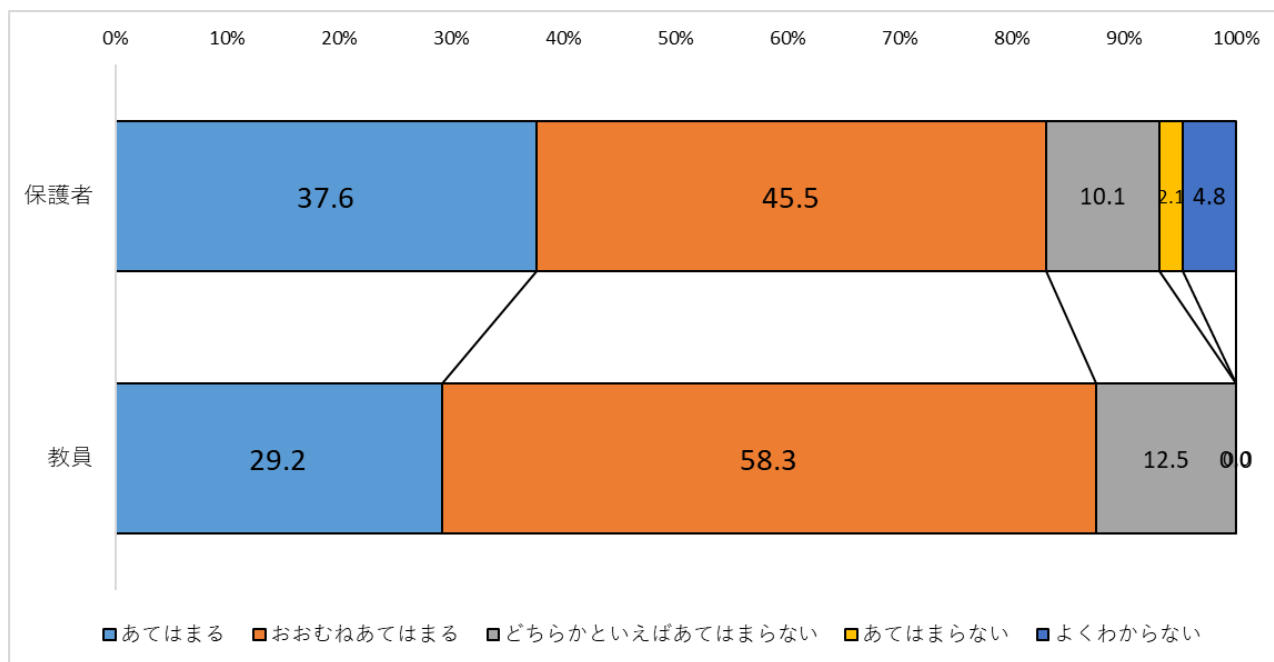
⑭ 情報発信

※ 学校は、学校の教育方針や学校での学習の様子をわかりやすく保護者に伝えている。



⑮ 共通理解

学校は、各家庭との意思疎通や連携を図るため、各家庭への連絡等を必要に応じてきめ細やかに
行うよう努めている。



「地域とともにある学校づくり」を推進していくためには、学校から保護者や地域の方への情報発信は、今後より一層重要となってくる。

「情報発信」については20%を超える保護者が否定的、または、「わからない」といった回答を示している。

本年度は学校からの情報発信として「学校通信」や「学年通信」を通して学校や生徒の様子を保護者に伝えてきたが、それに併せて、学校ホームページを充実させ、タイムリーな情報をいつでもどこでも得られるような工夫を行ったり、学校開放日等で学校が中心として行っている学習法や取組についてわかりやすく保護者に伝えるような内容の検討に取り組んだりする必要があると考えられる。

「共通理解」は、生徒個々の日常での状態について、どれぐらい学校と保護者とで共有できているかを示している。

学校としては、家庭訪問や保護者との面談等の時間を設定して行っており、それ以外にも気になる生徒については電話連絡や家庭訪問で保護者との情報共有を心掛けている。

しかしながら、17,2%の保護者が否定的、または、「わからない」といった回答をしめし、また、教員自身も12,5%が否定的な回答を示しているのは、特に気になる生徒以外の生徒について、日常的な情報交換がなかなかできないことが要因と考えられる。

教員も時間的なゆとりがないため、個々の生徒について日常的に保護者とコミュニケーションをとることは難しいが、保護者の方からも気軽に子どものことを尋ねることができる環境づくりを行っていく必要がある。

4 本年度の成果と課題

(1) 学力アップ Communication

○成果

全国や県の学力テストの成績が年々向上しており、本年度は過去5年間で最高の結果であった。

●課題

家庭学習に改善の余地が見られた。

☆達成度 (A～Dの4段階評価)

B 概ね達成

(2) 心力アップ Collaboration

○成果

「礼儀」「友人関係」「思いやり・助け合い」「遵法精神」の項目で90%程度の肯定的な回答を得られており、落ち着いた学校生活を送れている。

●課題

「人権が尊重される環境」について個々の生徒の資質や特性に配慮した指導を行う必要がある。

☆達成度 (A～Dの4段階評価)

A 達成

(3) やる気アップ Change

○成果

生徒の国際感覚を育成するために「鎮西から世界へ」のスローガンのもと国際交流活動を行った。

●課題

生徒が主体的に取り組める活動や、地域の活動に積極的に取り組むことができるための環境づくりをおこなっていく必要がある。

☆達成度 (A～Dの4段階評価)

C 改善が必要

(4) 体力・耐力アップ Challenge

○成果

生徒の基本的な体力は全国水準であり、安全面の配慮も行うことができた。

●課題

教育相談の充実、および、生徒が自らの心のケアができるストレスマネジメントの学習を行っていく必要がある。

☆達成度 (A～Dの4段階評価)

B 概ね達成

学校関係者 評価

(学校運営協議会委員)

令和元年度の学校関係者評価

本年度より、本校は学校運営協議会を立ち上げ、これまで学校評議員の方をお願いしていた学校関係者評価を学校運営協議会委員の方々にご依頼した。学校で実施した「学校評価（自己評価）」の資料をもとに「学力アップ」「心力アップ」「やる気アップ」「体力・耐力アップ」の4つの観点について4段階評価（A～目標を達成できている、B～概ね目標を達成できている、C～改善が必要、D～大きく改善が必要）で評価していただいた。Aを4点、Bを3点、Cを2点、Dを1点として、4点満点で総合評価とした。

学力アップ : Communication	
意欲をもって学習に取り組み、自分の考えや気持ちを伝え合う児童生徒の育成。	
4段階評価（4点満点）	ご意見
3. 8	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学力テストが県平均を超えている時点で十分評価できる。あとは、単年ではなく継続していければもっと良い。情報発信はWEB媒体をうまく活用していけば面白い。例えば保護者専用サイトを作るなど。 ・ 協調学習の推進の必要性については難しい問題と思うが取り組んでいただきたい。 ・ 家庭学習不足は保護者の協力が必要不可欠と思われるが、各々の家庭環境もあり難しいものがある。反転学習の取入れなど検討していただきたい。 ・ 学力は向上しているが、授業日数が限られている中での家庭学習を充実するように、先生も保護者も努力していかなければならない。 ・ フクトの学力テストで県平均を超え、全国学力調査で国語が全国平均に達するということが感慨深いものがある。これを継続出来たら最高の評価につながる。

心力アップ : Collaboration	
友達のよさを認め、思いやりをもち、協力して行動する生徒の育成。	
4段階評価（4点満点）	ご意見
3. 5	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒同士の仲の良さや行事等で団結して協力できている様子は評価できる。ただ、横の関係は十分だと思うが、縦の関係、特に言葉遣いなどはまだまだと感じる。 ・ 学校や学級の雰囲気がよく、友達と仲良く生活できている。 ・ 各項目、概ね肯定的な回答が90%以上であり素晴らしいことだと思いますが、この分野では、少なくとも生徒の自己評価では100%の肯定的な回答を目指すべき。

やる気アップ : Change	
地域を愛し、夢や志をもって自分を磨き高めようとする生徒の育成。	
4段階評価 (4点満点)	ご意見
3.5	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒たちのことを考えての授業づくりなど評価できる。子どもの知っている世界は狭いので、多くの人と関り、いろいろなことを感じることで、向上心や自主性が高まると思う。キャリア教育や地域との関りはやはり大切である。 ・「自主・自律」の項目で、教員の否定的な回答が24%と高いのが気になるが、生徒個々の考え方の違いから苦慮されている先生が多いと見る。やはり、保護者他、周囲の方々の協力の必要性がある。 ・青年会会員は行事に参加しているが、入っていない生徒の地域への関りを一緒に考えていきたい。 ・生徒は少数ながら「鎮西青年会」に所属している。市内の他の地区にはないことで素晴らしいと思う。国際感覚も大切ですが、まずは自らの地域の文化を知ってほしい。

体力・耐力アップ : Challenge	
自らの健康や体力に関心を持ち、心のケアに配慮しながら、目標に向かって最後までやり遂げる生徒の育成。	
4段階評価 (4点満点)	ご意見
3.5	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な体力が全国水準であることや、健康面でのケアなど評価できる。生徒本人がもっと意識するようになったらよい。 ・コロナウイルス感染症の影響で、今までになかった健康面での対策が必要とされて、学校や先生方も大変だと感じる。生徒一人一人が自己管理できるようになればと思う。 ・体力調査で、7年生がとてもいい結果を残している。学習面だけではなく健康・体力面についても継続して取り組んでいくことが大切だと思う。